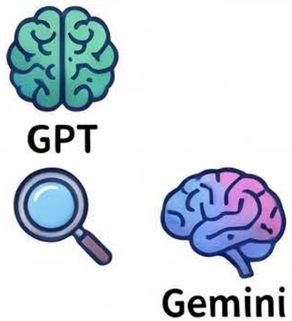
Perplexity Multiagentの概要と知財業務への活用・限界

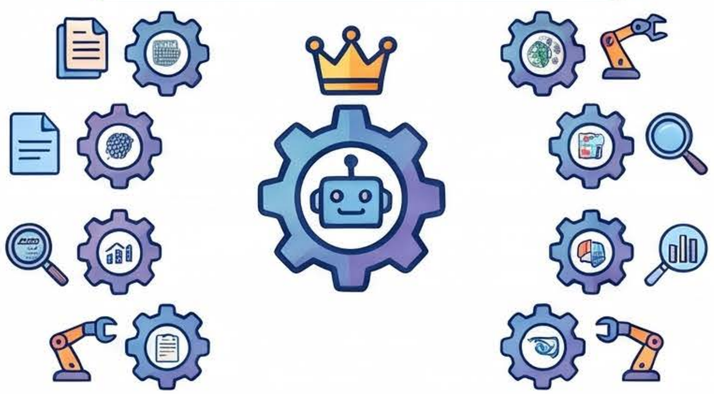
Multiagentの主要機能と強み

異種LLMの相互検証



異種モデルの議論で精度向上。

最大16体の並行分業



リード役が最大16体に作業分配。

知財実務における適応範囲

推奨：初期分析・構造化



多言語調査や事業分析に最適。

回避：最終鑑定・未公開発明



網羅性欠如と弁理士法上の制約。

知財業務タスク	適用可否	主な理由・留意点
IPランドスケープ・市場分析	推奨	多角的な視点による仮説構築や情報整理に最適
先行技術の一次スクリーニング	条件付き	漏れ防止に有用だが検索式の再現性は不可
FTO調査・鑑定・出願作成	非推奨	網羅性の証明不可・弁理士法上の制約あり

Gemini Notebook